

資料

## 保育実習の評価に関する分析と改善への取り組み

赤 坂 和 哉

**Analysis and Improvement of the Evaluation in Childcare Practical Training**

Kazuya AKASAKA

函館短期大学紀要

第 51 号

2024 年 3 月

資料

## 保育実習の評価に関する分析と改善への取り組み

### Analysis and Improvement of the Evaluation in Childcare Practical Training

赤 坂 和 哉

Kazuya AKASAKA

函館短期大学

Hakodate Junior College

#### 要旨

本報告では、「保育実習Ⅱ」において実習先から提出される実習評価表での評価得点と実習に先立ち展開される「保育実習指導Ⅱ」での指導との関連を分析し、今後の改善への取り組みに言及した。分析の結果、2021年度より3年間f-GPAは低下傾向にあるが、実習の評価得点は3年間上昇傾向であった。その主な理由は、「保育実習指導Ⅱ」の模擬保育でICTを用いた取り組みがなされたことや保育実習日誌の様式を変更したこと及びデジタル機器での日誌入力を可能にしたこと等であると思われる。そして、よりよい教育を学生に提供するために「保育実習Ⅱ」だけでなく「保育実習Ⅰ（保育所）」「保育実習Ⅰ（施設）」「保育実習Ⅲ」「教育実習」も含めたすべての実習の実施に関連して、学生の書くことの不得手さも踏まえて、実習日誌における同様な記述の省略、実習におけるPCの活用を推進、評価表を見直し、といった三点の改善を2024年度より実施していくことになった。

キーワード：保育実習，模擬保育，ICT，実習日誌，デジタル機器

#### 1. はじめに

近年の高等教育機関を取り巻く状況には様々な変化が起こっている。その一つとしては、文部科学省による義務教育を対象としたGIGAスクール構想に見られるような、教育におけるICT化がある。

教育におけるそのような潮流及び学生がデジタルネイティブ世代であることを受けて、近年、本学でも様々な授業において、デジタル機器やICTを活用することが少しずつ増加してきている。

本報告では、そのようなICTを導入した授業の一つである「保育実習指導Ⅱ」における指導と「保育実習Ⅱ」の評価に関して実習先から提出された「実習評価表」（以下、評価表と略記）における評価得点との関連を考察し、保育士の養成に

向けてよりよい指導が可能となるように適宜改善策を講じてきたことを報告する。

#### 2. 分析の対象と方法

##### (1) 分析対象

分析の対象としたのは、2021年度から2023年度までの「保育実習Ⅱ」（2年時の6月、8月、9月に実施）を履修した学生に対する評価表である。この評価表（Apx. 1）は、全国保育士養成協会（2018）<sup>1)</sup> が例示する評価基準と評価表（Apx. 2）をもとに作成されている。

「保育実習Ⅱ」を履修した学生は、2021年度は42名、2022年度は47名、2023年度は23名であり、実習先は、函館近郊、道南、道外を合わせて、2021年度は30園、2022年度は30園、2023年度は

17園である。

「保育実習指導Ⅱ」においては、各年度に以下のような新しい取り組みが導入されたことを踏まえて、そのような変更点を中心に、評価得点と指導の関連性を考察し、改善策を提示した。

## (2) 指導の変更点

2021年度は、「保育実習指導Ⅱ」の担当教員が一部変わったことを受けて、これまで数年にわたって実施されていた内容を基本的には踏襲した。

実習での研究保育を見据えた模擬保育に関しては、これまで通り、学生による指導案を教員が添削し、模擬保育の観察を通して、その場で学生に良い点や改善点などを聞く形を取った（学生は対象を1～4歳児の中から決め、製作や運動等のテーマについては自由に選択した）。しかしながら、模擬保育を振り返る時間を学生が十分に持ていない印象があったため、次年度に向けての改善点について担当教員で議論した。

また、職業倫理に関しては、これまで通り守秘義務を中心に学生に説明したが、その際には新たにSNSの使い方にも言及した。

2022年度には、模擬保育に関しては、前年度と年齢やテーマ等を同様の設定としたが、模擬保育を録画し、模擬保育時の観察と録画された動画の視聴を通して良い点や改善点を学生が記述し、そのような学生のコメントを学生全体で文書形式で共有した。その際には、動画はクラウドストレージ上の共通フォルダに置いて、いつでも視聴できるようにし、良い点等のコメントはフォーム作成クラウドを利用したアンケートに答える形式をとって、「保育実習指導Ⅱ」以外の時間を使って学生が取り組めるようにした。

実習日誌に関しては、保育実習（保育実習Ⅰ保育所、保育実習Ⅱ）、施設実習（保育実習Ⅰ施設、保育実習Ⅲ）、教育実習と各実習のごとに様式が異なっており、記入に際して戸惑う学生が多く、反省や考察の記入に時間を要する学生も多かったため、実習日誌を書くことの理解を深める目的で、実数日誌を改め、すべての実習に対応する共通の実習日誌を作成した（Apx. 3-1, 3-2, 3-3, 3-4）。その際には、例えば、保育実習と教育実習の実習日誌で観察等の対象者はそれぞれ「子ども」「幼児」と異なる文言が使用されていたが、教育・保

育を一体的に行う認定こども園という存在を念頭に「子ども」とした（Apx. 3-2）<sup>\*1</sup>。また、授業の中でも反省や考察の意味を詳細に説明はしているが、「反省」という文言のあとに括弧をつけて「できた点やその成果、できなかった点やその課題」と記し、「考察」のあとには同様に「なぜ、できたか、できなかったかについての考え」と説明を加えた（Apx. 3-3）。

そして、実習日誌を新たにしたことに伴い、PCを保有しており、自身でデータを印刷できる学生に限って（スマートフォンや実習先のPC等の利用は不可）、実習日誌の日々の記録部分（Apx. 3-2, 3-3）はPCでの入力を許可した。

2023年度には、模擬保育に関しては、年齢が5歳児、テーマが製作に偏ることが多かったため、年齢については2歳か4歳、テーマについては製作と運動（ゲーム）として、年齢及びテーマが偏らないように調整した。

そして、実習日誌に関しては、現場での経験が長い教員の助言のもと「子ども・利用者」と「環境構成 ◎保育者・職員の援助」の項目を入れ替えて、環境構成に関する記述が前に来るように変更した。また、PCで入力できる範囲を実習全体の総括としての項目である「実習における自己課題について」「保育者・職員の役割について学んだこと」（Apx. 3-4）にも拡大した。

加えて、実習日誌を書く際に「気づき」を書くのが難しいという学生の声を受けて、模擬保育の映像を使った「気づき」を文章で書く練習を新たに取り入れた。

## 3. 結果

評価表の態度に関する経年変化は以下の通りであった（Fig. 1）。

2021年度と2022年度を比較すると、2022年度では、「探究心」「協調性」「勤務態度」で前年度を上回っている。そして、2023年度では、すべての項目において2021年度及び2022年度の数値を上回り、4.0以下は見られない。

次いで、知能・技能に関する評価の経年変化は以下の通りであった（Fig. 2）。

すべての年度を通して、「子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会との連携」「保育

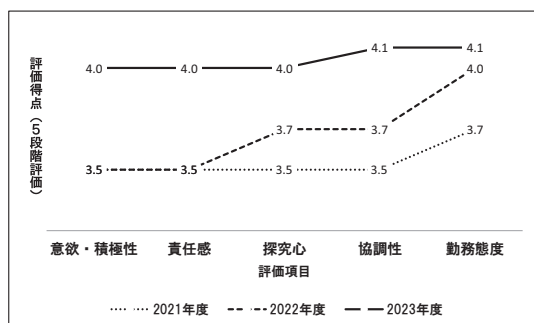


Fig.1 態度に関する評価の経年変化

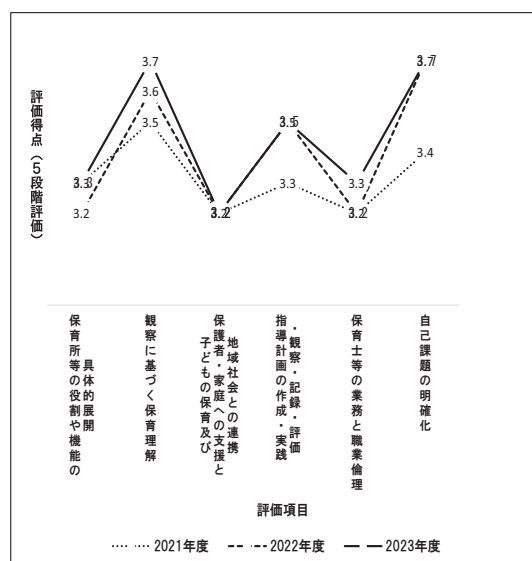


Fig.2 知能・技能に関する評価の経年変化

士等の業務と職業倫理」の項目の評価得点が低く、グラフ上で常に二つの谷となっていることが確認できる。

2021年度と2022年度を比較すると、「保育所等の役割や機能の具体的展開」は2021年度の方が評価得点が0.1高いが、谷をなす上記の二つの「子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会との連携」「保育士等の業務と職業倫理」の項目は両年度で同じ数値であり、それ以外の「観察に基づく保育理解」「指導計画の作成・実践・観察・記録・評価」「自己課題の明確化」という三項目では2022年度の方が評価得点が高かった。また、2022年度と2023年度を比較すると、「保育所等の役割や機能の具体的展開」「観察に基づく保育理

解」「保育士の業務と職業倫理」の三項目で前年度を上回っている。その結果として、2023年度の評価が最も高くなっている。

尚、各年度の2年次学生前期のf-GPA<sup>\*2</sup>の平均は、2021年度は2.58、2022年度は2.47、2023年度は2.47となっている。

#### 4. 考察

##### (1) 評価得点とこれまでの指導等との関連

評価表の態度に関する経年変化について、この3年間で評価得点が上昇しているのは、「保育実習指導Ⅱ」の指導体制が変わってから数年が経ち、学生と教員との間のやりとりが多く、ICTやデジタル機器を適宜使用する指導方法が確立されてきたことが大きな要因と思われる。そのような指導の結果、学生のモチベーションが上がった印象があった。

そして、個々の学生のパーソナリティに拠ることもあると思われるが、繰り返し、積極性・挨拶・身だしなみ等について、学生自身の個性を尊重しつつも、要点を丁寧に指導してきたことも評価得点上昇の一因と言えるだろう。

また、新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、感染防止対策として中止となっていた各種の学内行事等が再開され人と関わる経験の重要性を認識したこと及び人と関わる経験が増えたことも遠因として指摘できるとと思われる。

知能・技能に関する評価の経年変化については、先に「子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会との連携」「保育士等の業務と職業倫理」の二つの谷について指摘したが、この項目は、実習の前後に開催される、本学の実習の取り組みについての共通理解を深めていくための「実務担当者会議」において、出席した園長及び保育士から、抽象的で評価しにくい項目との指摘が度々ある項目である。

そこで、本学では、前者に関しては、函館市の地域子育て支援拠点事業「子育てサロン」を併設している実習園には、その見学やお手伝い等で実習生が関わりを持てるように依頼している。また、送迎時の保護者との相談も含めたやりとりの観察も状況に応じてお願いしている。後者に関しては、実習園での子どもの人権への配慮や個人情報の取

扱い等を実習生が何かしらの形で観察できるように依頼している。今後、そのような依頼内容が浸透していくことを期待したい。

次に「保育所等の役割や機能の具体的展開」「観察に基づく保育理解」の項目が2023年度に高くなっている点については、上述したように、模擬保育の指導に力を入れており、その際に、養護と教育の一体性を念頭におきつつ、保育所の活動全体の中での研究保育の位置づけ、年齢や特性に応じた適切な内容や関わり等を考えるように指導している点を、学生が意識できた結果と言えるかもしれない。

## (2) 改善策

以上が、この3年間で、f-GPAは低下傾向にあるものの、評価得点は年々上昇傾向を示していることに関する考察であるが、今後、今以上に学生にとってよりよい教育を提供するために、実習先との対話の機会である「実務担当者会議」及び「保育・教育実習委員会」における、評価得点には直接反映されにくい実習日誌に関する記入内容と記入方法についての議論を踏まえて、2023年12月に保育学科教員の合意に基づき、以下のような改善を次年度の実習より図ることにした。

### 1) 実習日誌における同様な記述の省略

実習日誌に関しては、学生から「書くのに何時間もかかる」等の声があり、上述の会議や委員会に出席の園長や保育士からも毎日の保育所の活動を入園時から記述するのではなく、学生が気づいたこと、重要だと思ったこと、学んだこと等に焦点を当て書く方が良いという意見があったことを踏まえて、実習日誌の日々の記録の箇所は、毎日繰り返して同じ部分については、実習先の指導方針を尊重することを第一として、実習先の同意を得た上で、省略することやコピー＆ペーストすることは構わないこと、実習中の気づきや学んだ点を中心に書くようにすることの二点を学生に伝えることにした。

### 2) 実習におけるPC活用の推進

デジタルネイティブ世代の学生における書くよりも入力することの方が早いという点を念頭に置き、実習におけるPCの活用をさらに進めるために、a) 全学での取り組みとして、学内で使用しなくなったノートPCを希望者に貸し出す検討に

入り、b) 実習日誌だけでなく、指導案もデータで配布することにし、c) PCを持って移動することを容易にするためという理由も含めて、これまで施設実習のみに許可されていた自家用車での実習先への通勤を条件付きで保育実習及び教育実習でも可能とした。

尚、2022年度と2023年度に、実習日誌をPCで入力した学生は、PCを保有している学生が少ないため、数名であった。

### 3) 評価表の見直し

上述の会議や委員会に出席した園長や保育士から、評価表に関して5や1をどのような基準でつけるのかという疑問が出される等、評価の観点等が理解しにくい部分があると思われたため、現行の五件法、「非常に優れている・優れている・適切である・努力を要する・非常に努力が必要」を「優れている・やや優れている・適切である・やや努力を要する・努力を要する」に改め、その評価基準を簡潔に記したものを2024年度の「実務担当者会議」から配布することとした。

その評価基準は、「優れている」については「実習生として、保育現場について十分に理解し、自ら進んで行動したり、考えたりした」、「やや優れている」については「実習生として、保育現場について概ね理解し、自ら進んで行動したり、考えたりしたりする姿が見られた」、「適切である」については「実習生として、保育現場について概ね理解しようとする姿が見られ、自ら進んで行動したり、考えたりしたりする姿が見られた」、「やや努力を要する」については「実習生として、保育現場について不十分であるが理解しようとする姿が見られ、保育者が促すことで進んで行動したり、考えたりしたりする姿が見られた」、「努力を要する」については「実習生として、保育現場について理解しようとする姿があまり見られず、保育者の指示があるとことで行動したり、考えたりしたりする」とした。

以上のように、2023年度までの評価得点とそれに関する分析・考察をもとに、学生や実習先からの意見も大切にして、教職員間の話し合いによる合意形成を重視して練られた改善策を、2024年度より適宜実行していく予定である。今後も、そのような手順を踏んで、地域の実習先と有益な協力

関係を維持し、地域に必要とされる保育士を輩出していきたいと思う。

尚、「保育実習Ⅱ」の評価得点の分析に関しては、各年度ごとに履修者の学生数に違いがあり、学生の質に関しても一定ではなく、さらには新型コロナウイルスの感染拡大を受けて実習期間も異なることから、限界があることも最後に付記しておきたい。

〈注〉

\*1：保育所、施設、幼稚園での実習を想定して書かれている書籍（久富、2023）<sup>2)</sup>においても実習記録や指導計画の見本の中で「子ども」という言葉が使われている。

\*2：f-GPAとは、functional-Grade Point Averageの略であり、GPAよりも厳正な成績評価の指標である。

〈謝辞〉

評価表のデータを処理し「保育実習指導Ⅱ」をともにご担当いただいた本学専任講師の野呂祐人先生及び評価表の評価基準を作ってくださった本学准教授の白府士孝先生、また「保育実習Ⅱ」の実習巡回において丁寧に学生を指導してくださった保育学科の全教職員に深く感謝いたします。

#### 引用文献

- 1) 全国保育士養成協議会編．“第Ⅱ部 6 実習評価”．保育実習指導のミニマムスタンダードVer.2：「協働」する保育士養成．東京，中央法規出版，2018，142.
- 2) 久富陽子編著．“第1部 2 実習中に”．学びつづける保育者をめざす実習の本〈第4版〉．東京，萌文書林，2023，44-51.



## Apx. 1 本学の評価表

## 保育実習Ⅱ 評価票

令和 年度

実習生	函館短期大学 保育学科2年 学籍番号		氏名	
実習施設名			施設長名	㊟
			実習指導担当保育士等氏名	㊟
実習期間	令和 年 月 日 ( 曜日 ) ～ 令和 年 月 日 ( 曜日 )			
実習日数	実習日数 ( 日 )	欠席日数 ( 日 )	遅刻 ( 回 )	早退 ( 回 )

項目	評価の内容	評価の観点	評 価 (該当するものに○)				
			5	4	3	2	1
態 度	意欲・積極性	・指導担当者からの指示を待つばかりでなく、自分から行動している。 ・積極的に子どもとかわらわろうとしている。 など					
	責任感	・十分な時間的余裕を持って勤務開始できるようにしている。 ・報告・連絡・相談を必要に応じて適切に行っている。 など					
	探求心	・日々の取り組みの中で、適切な援助の方法を理解しようとしている。 ・日々の取り組みの中で、自己課題を持って実習に臨んでいる。 など					
	協調性	・自分勝手な判断に陥らないように努めている。 ・判断に迷うときは、指導担当者に助言を求めている。 など					
	勤務態度	・あいさつや言葉遣い、身だしなみ、礼儀等に気を付けている。 ・節度や良識があり、保育者として自覚のある行動をしようとしている。 など					
知 識 ・ 技 術	保育所等の役割や機能の具体的展開	・養護と教育が一体となって行われる実際の保育について理解できている。					
		・保育所等の社会的役割と責任について具体的実践を通した理解ができている。					
	観察に基づく保育理解	・実際の子どもとの関わりを通して、子どもの心身の状態や活動に対する観察ができている。					
		・保育士等の動きや実践に対する観察ができている。					
		・実際の保育所の生活の流れや展開について理解できている。					
	子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会との連携	・環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育について理解できている。					
		・保護者支援及び地域の子育て家庭への支援の実践について理解できている。					
		・地域社会との連携の実践について理解できている。					
	指導計画の作成、実践、観察、記録、評価	・全体的な計画と指導計画の作成・実践・省察・評価と、実際の保育の過程の展開について理解できている。					
		・作成した指導計画に基づく保育実践の評価ができている。					
保育士等の業務と職業倫理	・多様な保育の展開と保育士等の業務内容の関連性について理解できている。						
	・保育士等の職業倫理について具体的な実践にむずびつけて理解できている。						
自己課題の明確化	・保育士等を目指す者としての自己の課題を明確にすることができている。						
総合所見	(できていたこと、今後課題になること)※評価項目に2や1がある場合は具体的に記入してください。						

## 【記入要項】

◆評価基準は以下の通りです。  
実習生として 5:非常に優れている 4:優れている 3:適切である 2:努力を要する 1:非常に努力が必要

◆総合所見では、実習を通して学生ができていた点、今後の課題となる点を記入してください。

## Apx. 2 全国保育士養成協会の評価表例

## 保育実習Ⅱ評価票（例）

実習施設名		施設長名		実習指導担当保育士名			
				印			
実習生	学年	クラス	学籍番号	氏名			
実習期間	年	月	日（ ）～	年	月	日（ ）	
勤務状況	出勤日	日	欠勤日数	日	遅刻数	回	早退数
							回

項目	評価の内容	評価上の観点	評価 (該当するものの□にチェック)			
			A	B	C	D
態度	意欲・積極性	・指導担当者からの指示を待つばかりでなく、自分から行動している。 ・積極的に子どもとかかわろうとしている。 など	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	責任感	・十分な時間的余裕を持って勤務開始できるようにしている。 ・報告・連絡・相談を必要に応じて適切に行っている。 など	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	探究心	・日々の取り組みの中で、適切な援助の方法を理解しようとしている。 ・日々の取り組みの中で、自己課題を持って実習に臨んでいる。 など	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	協調性	・自分勝手な判断に陥らないように努めている。 ・判断に迷うときには、指導担当者に助言を求めている。 など	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
知識・技術	保育所等の役割と機能の具体的展開	・養護と教育が一体となって行われる実際の保育について理解できている。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		・保育所等の社会的役割と責任について具体的実践を通じた理解ができている。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	観察に基づく保育の理解	・実際の子どもの様子とかかわりを通して子どもの心身の状態や活動に対する観察ができている。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		・保育士の援助や関わりに対する観察ができている。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		・実際の保育所等の生活の流れや展開について把握できている。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	子どもの保育および保護者・家庭への支援と地域社会との連携	・環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育について理解できている。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		・保護者支援および地域の子育て家庭への支援の実態について理解できている。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		・関係機関との連携の実践について理解できている。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		・地域社会との連携の実践について理解できている。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	指導計画の作成、実践、観察、記録、評価	・全体的な計画に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価と実際の保育の過程の展開について理解できている。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		・作成した指導計画に基づく保育実践の評価ができている。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	保育士の業務と職業倫理	・多様な保育の展開と保育士の業務内容の関連性について理解できている。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
・保育士の職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解できている。		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
自己課題の明確化	・保育士を目指す者としての自己の課題を明確にすることができている。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
総合所見	(できていたこと、今後課題になること)		総合評価 (該当するものに○)		実習生として A：非常に優れている B：優れている C：適切である D：努力を要する	
					※大学側評価欄 実習指導者氏名 印	

## 記入要項

1. 評価基準は以下の通りです。

A：実習生として非常に優れている B：実習生として優れている C：実習生として適切である D：実習生として努力を要する

総合所見では、実習を通して学生ができていた点、今後の課題となる点などを記入してください。



Apx. 3-1 共通実習日誌のオリエンテーション部分

## オリエンテーション概要

実習施設について					
実 習 期 間	年 月 日 ( 曜 日 ) から 年 月 日 ( 曜 日 ) まで				
法 人 名					
施 設 名					
施 設 長 名					
指導担当者名					
住 所	〒				
電 話 番 号					
開 設 年 月 日					
定 員 数	名	在籍者数	名	在籍世帯数	世帯
実習施設の目標および方針					
在籍数(クラス別・グループ別)					
0歳児	名	3歳児	名		
1歳児	名	4歳児	名		
2歳児	名	5歳児	名		
職員配置数					
0歳児	名	3歳児	名		
1歳児	名	4歳児	名		
2歳児	名	5歳児	名		
栄養士	名	調理師/調理員	名		
実習施設の特徴(あてはまる個所に○をつけましょう)					
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 20%;">           延長保育・休日保育・障害児保育・病後児保育・一時保育・地域子育て支援センター             その他         </div> <div style="width: 60%; border: 1px solid black; height: 100px;"></div> <div style="width: 20%; text-align: right;">           )         </div> </div>					

## px. 3-2 共通実習日誌の日々の記録部分 1

令和	年	月	日( )	実習( )日目	氏名
対象	クラス名(年齢)・グループ		合計(名)	特記事項	
本日の実習目標					
時間	子ども・利用者の活動	環境構成	◎保育者・職員の援助	○実習生の活動	●気づき・留意点

Apx. 3-3 共通実習日誌の日々の記録部分2

時間	子ども・利用者の活動	環境構成 ◎保育者・職員の援助	○実習生の活動 ●気づき・留意点
<p>本日の実習目標に対する反省(できた点やその成果、できなかった点やその課題)</p>			
<p>本日の考察(なぜ、できたか、できなかったかについての考え)</p>			
<p>指導者の所見</p>			
			指導者印

Apx. 3-4 共通実習日誌の総括部分

学籍番号( ) 実習生氏名					
実習における自己課題について					
保育者・職員の役割について学んだこと (職業倫理、チームワーク、地域社会との連携、子どもの最善の利益、保護者との関わり等)					
総合所見 <table border="1" data-bbox="1075 1362 1193 1663"> <tr> <td>施設長印</td> </tr> <tr> <td> </td> </tr> <tr> <td>指導者印</td> </tr> <tr> <td> </td> </tr> </table>		施設長印		指導者印	
施設長印					
指導者印					

